

# 琉球大学学術リポジトリ

## 平成22年度（2010）発達支援教育実践センター事業 報告

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学教育学部附属発達支援教育実践センター 公開日: 2011-06-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/20190">http://hdl.handle.net/20.500.12000/20190</a>

## 平成22年度（2010）発達支援教育実践センター事業報告

本センターは発達支援を必要とする子どもたちへの教育に関する基礎的研究、臨床的研究、そして教育方法の開発等を行うとともに教育相談や研修活動を通じて地域社会に貢献することを目的としている。平成19年4月より特別支援教育がスタートし、試行錯誤の取り組みが学校現場において行われている。発達支援教育・特別支援教育に対する現場からの本センターへの期待はますます大きくなることを見据えて、平成18年10月より現場での取り組みをサポートするとともに子どもたちへの支援を行いながら学生の実践教育を行うトータルの実践活動『実践トータル支援活動』をスタートさせた。本年度10月で5年目に入り、広がってきた他機関とのネットワークにより連携・協働を深めながら、地域貢献および学生教育の発展に努めている。

昨今、早期支援の重要性が指摘され、乳幼児期から学童期へと一貫した子どもたちの支援の必要性が求められている。当センターにおいても乳幼児期における発達支援および特別支援教育に関するより一層の地域貢献が求められるようになった。昨年度より当センターの名称を新たに『発達支援教育実践センター』と変更し、乳幼児における発達上のハイリスク児を含めた対象児を拡げ、一貫した支援教育を視野に入れ再スタートした。

本センターは本年度においても発達支援を必要とする気がかりな子どもたちへの教育や関わりの方を考える上での方法や資料の提供、実践事例研究会、公開セミナー、研修会などを開催した。また、教育事務所、教育委員会、公立学校、特別支援学級などの教育機関、付属小・中学校との連携による支援を行った。

八重山教育事務所との連携による出前トータル支援教室が9月に開催された。さらに平成23年の3月にも予定されている。残念ながら10月に予定していた東村教育委員会との連携による東小学校との出前トータル支援教室は台風の影響により中止になった。また、大学を拠点として開催してきたトータル支援教室においては今まで特別支援員実践力養成を目的に参加してきた読谷村教育委員会の支援員に加え、10月には新たに那覇市教育委員会から特別支援教育に携わるヘルパーの参加要請を受け入れ実

践力養成機能を充実させることとなった。

平成23年1月に滝川一廣（学習院大学教授）氏、浜田寿美男（奈良女子大学名誉教授）氏を招聘し当センターの本年度の実践研究の成果を報告する公開セミナーを行った。

### 発達支援教育実践センタープロジェクト

#### ①21世紀おきなわ子どもフォーラム

・教育学部における『21世紀おきなわ子ども教育フォーラム』への参画し、八重山出前支援を実施した。

事業名：八重山教育事務所との連携による特別支援教育支援員の実践養成講座の構築

実施期間：第2回3月5日～6日、第3回9月3日～4日、第4回3月4日～6日（2011）

#### ②財団法人琉球大学後援財団

・外部講師を招聘し、実践事例研究会、基調講演、実践研究報告会を開催した。また、八重山教育事務所の協力による八重山出前支援を3月に実施した。

事業名：離島・へき地への発達支援と支援セミナー：子どもたちへの出前トータル支援

実施期間：1月21日～22日（2011）

事業名：八重山教育事務所との連携による特別支援教育支援員の実践養成講座の構築

実施期間：第4回3月4日～6日（2011）

### 関係機関および付属小・中学校への共同研究および連携支援

以下の関係機関への支援、および連携による共同研究、共同支援を行った。教育事務所、教育委員会、学校、特別支援学級などそれぞれの関係機関の規模、形態、ニーズに合わせた連携の在り方を模索した。

①機関名：八重山教育事務所 活動名：島嶼地域出張教育相談支援

活動内容：保護者、教員への発達相談、教育心理相談、学校訪問相談

②機関名：八重山教育事務所 活動名：トータル支援教室の出前支援、実践事例研究会

活動内容：トータル支援出前教室、事例研究会に

よる特別支援教育支援員実践力養成支援

- ③機関名：読谷村教育委員会 活動名：特別支援教育支援員養成支援

活動内容：トータル支援教室における特別支援教育支援員の実践力養成支援

- ④機関名：那覇市教育委員会 活動名：特別支援教育支援員の養成支援

活動内容：トータル支援教室における特別支援教育支援員の実践力養成支援

- ⑤学校名：付属小学校 活動名：定例の巡回相談（月1回）

### 1. 実践教育・臨床支援活動

中核の活動である『トータル支援教室』では、大学教員、学生、院生、現職教員、支援員等が参加して発達障害のある子どもたちや気がかりな子どもたちの参加による実践教育支援、及び実践研究を目的として定期的に集団支援、個別支援、連携支援を行った。特に本年度は那覇市教育委員会との連携のもと特別支援教育に携わるヘルパーが実践力養成の目的により参加し、現職教員、学部学生、院生、特別研究員、特別支援教育支援員等の参加者により協働の多様な取り組みとなった。この『トータル支援活動』は地域支援を行うとともに学生、院生、現職教員、特別支援教育支援員等にとっては発達支援教育のための実践トレーニングの場となる活動である。発達支援教育実践センターは発達支援における地域貢献及び特別支援教育に貢献する教員を育てることを大切な課題として位置づけ、実践教育・臨床支援活動に取り組んでいる。

#### (1) 個別実践教育・臨床活動

本センターでは、個別臨床活動支援として母親面接、教員面接、子どもへの実践教育臨床支援を行っている。その支援内容は発達支援、教育学習支援、適応支援、子育て支援の4つ柱を中心としている。毎年度開催される発達支援セミナーにおけるアンケート結果から当センターに対する期待の大きさが見られる。一部の保育や学校現場では支援体制が整ってきたが、その支援体制が機能するかどうかが今後の発達支援教育・特別支援教育の課題である。相談機関として地域貢献の必要性を訴える要望と同時に、学校内部の具体的な取り組みの発展に関する支援についての期待があがった。学校現場は専門性の高い信頼できる相談機関を求めており特別支援教育のスタートによる子どもたちの発達支援や学校現場の戸惑いへの支援が課題となっている。本センターは新

しい施設が昨年度完成し、本年度から本格的に機能し始めたところであり施設機能を活用することにより、さらなる一層の地域貢献を目指している。

#### (2) 集団実践教育・臨床活動

来所された子どもたちのなかで集団適応を困難とする子どもたちには『トータル支援教室』に参加してもらった。スタートして4年が過ぎ『トータル支援教室』に参加している子ども、2人の支援が終了した。従って2人の新しいメンバーが新たに加わった。この活動は子どもたちを支援するとともに大学と小・中学校が連携することにより発達支援教育・特別支援教育の支援体制のより良い方向性を求める活動である。昨年度は、小学校、中学校、特別支援学校の先生やスクールカウンセラーとの連携が見られたが、本年度は参加の長い子どもたちは5年目に入ったこともあり実態がしっかりと捉えられ、支援の結果が見られるようになった。子どもたちが落ちついてきたことで個々の子どもについての学校等との連携は減少した。

今後、子どもたちに対してきめ細やかな支援が必要になるにつれて地域の支援機関とのネットワークの輪を広げていくための地域への当センターの取り組みの認知度を高めることが課題となる。そこで、引き続き、スタートから参加している浦添市立沢岬小学校の子どもたちやそれ以外の地域の子どもたち、さらに支援者として本年度から新しく当センターが提供している『発達支援教育実践A』、『発達支援教育実践B』の演習を受講している教育学部、法文学部の学生、大学院生等、専門専修に限らず多面的な視点をもったメンバーが取り組みに参加することになったが、昨年度から参加している医療法人おもと会の言語聴覚士養成専門学校の事情により参加できなくなった。

また、昨年度は、出前支援として東村立東小学校の通常学級で『トータル支援教室』を行うなど現場の通常学級の中に複数在籍する支援が必要な子どもたちへの『トータル支援教室』の実践の成果を還元していくことにも取り組んだ。本年度の東村での出前支援は台風の影響を受けて中止となった。

また、このトータル支援教室は、学生、院生、現職教員にとっては発達支援教育・特別支援教育のための実践力の養成をすることが可能となる活動である。当センターはこの教室に参加することによりひとり子どもたちと関わる視点を学んでもらい、その成果を、現場の発達支援教育・特別支援教育へ還元することを目的としている。本年度は、一昨年度

から参加している読谷村教育委員会に加え、那覇市教育委員会の支援員が実践力を養成する目的で活動に参加した。この教室での実践研究の成果はセンター主催の発達支援教育実践セミナーにおいて、平成23年1月に報告した。

### （3）実践教育・臨床支援ケースの概要

平成22年1月から平成22年12月までの1年間の月別セッション数を表1に示した。来所相談、訪問相談を合わせて、セッション数は総計468セッションになった。昨年度は397セッションであったので71セッション増加した。トータル支援プログラムの個別支援セッションが昨年度77セッションから17セッションへと減少した。多くの参加している子どもたちは4年近く通い続けており、安定してきていることもあり個別支援セッションは新しく入った子ども2人に限定して行った。

またトータル支援プログラム外の個別支援のセッション数は38セッションであり、昨年度の10セッションを大きく上回った。昨年度支援を行った事例

は101であったが、今年は93事例に留まった。昨年度より支援を行った対象は8事例減少したが、このことは特定の子どもをきめ細かく継続的に支援を行ったことが影響した。

一方、親面接は昨年度に比べほぼセッション数の変化はなかった。本年度から子どもの行動観察という項目を設けた。113件は子どもの行動によるアセスメントを行った。そしてその行動アセスメントにそって保護者や教員とともに考える形態の相談を行った。

保護者への面接依頼を受けて地域の保育園や学校に重点を置いた支援を行ったことが要因である。特に離島・へき地にプロジェクトで出向いたことで不安を抱える多くの保護者と面接をすることができたことが増加の要因である。

本年度はセンターの相談室、プレイルームが整い、遊具がそろった。今後は個別セッションにも力を入れて地域に貢献していく方針である。

表1 臨床活動 セッション数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
親面接(カウンセリング含む)セッション数	7	0	13	7	9	9	9	15	10	9	9	13	110
教員面接(スーパーヴィジョン含む)セッション数	14	15	17	14	15	19	11	10	16	17	11	15	174
子どもの行動観察(アセスメント)	7	6	8	9	9	16	6	6	14	18	6	8	113
子どもへの発達・教育学習・適応支援(心理療法含む)セッション数	0	0	4	1	3	3	4	4	5	4	5	5	38
実践トータル支援プログラム(個別支援)セッション数	0	0	0	1	2	0	0	0	0	3	6	5	17
実践トータル支援プログラム(集団適応支援)セッション数	2	1	1	1	2	1	2	0	1	1	2	2	16
合 計	30	22	43	33	40	48	32	35	46	52	39	48	468

(4) 実践教育・臨床支援ケースの診断別内訳

表2には診断別内訳を示した。相談対象のなかで多い障害は昨年度と同様にアスペルガー障害（高機能自閉症）であり約39.8%を占め、自閉症を含めると52.7%となり全体の約半数を占めた。注意欠陥多動性障害（ADHD）の相談が昨年度より6事例増加した。

表2 臨床活動 診断別内訳

診断名	事例数
アスペルガー障害（高機能自閉症）	37
注意欠陥多動性障害（ADHD）	14
精神遅滞（知的障害）	7
広汎性発達障害（自閉症）	12
学習障害（LD）	7
情緒障害（虐待、緘黙、不登校含む）	3
聴覚障害	0
言語障害	3
ダウン症候群	4
境界知能	2
身体障害	1
その他	3
計	93

(5) 実践教育・臨床支援ケースの地域別支援内訳

相談ケースの地域別内訳を以下の表3に示した。昨年と同様に宜野湾市、那覇市、浦添市、西原町、中城村などの大学周辺の市町村からの相談（約66.7%）を多く受けた。また、継続支援を行ってきた八重山地区では専門的立場で支援を行う人材の育成が課題となっている。発達障害のある子どもの保護者

の不安は高くなり、大学の支援の必要性が大きくなっている。

本年度は昨年度に引き続き教育学部における21世紀おきなわ子ども教育フォーラムの一環として八重山教育事務所と連携し、石垣市に出向き相談(26.9%)を多く受けた。昨年度は東村の出前相談も実施したが、本年度は台風の影響を受けて東村教育委員会との連携による支援を行うことができなかった。那覇市教育委員会からの支援依頼も増加した。

表3 相談ケースの地域別内訳

相談ケースの地域別内訳	事例数
宜野湾市	26
那覇市	18
浦添市	6
西原町	10
中城村	2
豊見城市	1
南城市	2
与那原町	1
南風原町	2
石垣市	24
武富町	1
総計	93

(6) 附属小学校支援

附属小学校に2月、4月、5月、6月、9月、10月、12月において巡回相談を行った。12人が相談対象となり担任、コーディネーター、養護教諭、校長と情報交換および支援について話し合った。表4に示したように合計年間延べ47人（重複含む）教員面接、行動観察をおこなった。

表4 附属小学校における相談人数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
教員面接（スーパーヴィジョン含む）セッション数	0	2	0	2	3	2	0	0	3	3	0	2	17
子どもの行動観察（アセスメント）	0	2	0	3	3	5	0	0	8	7	0	2	30
合計	0	4	0	5	6	7	0	0	11	10	0	4	47

## 2. 社会教育活動

平成18年10月より支援を必要とする子どもたちと特別支援教育について学ぶ意欲のある学生、院生、現職教員、さらに子どもたちの通う学校がともに関わりをもつ実践トータル支援教室をスタートさせた。専門機関としての大学の発達支援教育実践センターと公立の小学校とが連携して子どもたちを支援することがこの活動のねらいである。

### （1）実践トータル支援教室

保護者や学校から発達障害児における特別な支援を必要とする子どもたちの実践支援の要望を受けて、実践トータル支援活動を行っている。以下のような目的で活動している。

- ①支援を必要とする子どもたちやその保護者への支援
- ②支援活動を通して子どもたちやその保護者への特別支援教育について学ぶ学生や現職教員への実践教育支援
- ③学校・教育行政との連携支援
- ④支援活動を通して子どもたちについての理解の方法、支援の方法など、実践に役立つ支援に関する研究

支援活動は、学部学生、大学院生、保育士、小学校、中学校、特別支援学級、特別支援学校の現職教員の参加により子どもたちへの支援として個別支援活動と集団支援活動、保護者同士の情報交換を行っている。以下のような支援課題と目的で活動をしている。

#### 1) 個別支援活動

発達支援においては関係性に基づいた「生きる力を引き出す」ことを目的とし、教育学習支援においては発達の視点に基づいた「生きる力を育てる」ことを目的としている。

#### 2) 集団支援活動

適応支援においては情緒の豊かさとメンタルケアに基づいた「生きる力を支え活かす」ことを目的としている。

#### 3) 子育て支援活動

子育て支援においては子どもをもつ親の気持ちを支え、子どもたちの「生きる力を大切にする」子育て支援を目的としている。

水曜日、月2回のペースで共通教育棟本館4階の新しい発達支援教育実践センターを会場として以下のような多くの参加者により支援活動を行った。ここでは2010年1月から12月までの第59回から第73回までの活動を示す。また、その活動の内容を表4に、支援活動参加者数を表5に示す。

### 平成22年度（2010）発達支援教育実践センター事業報告

水曜日、月2回のペースで琉球大学教育学部発達支援教育実践センターを会場として以下のような支援活動を行った。ここでは2010年1月から12月までの第59回から第73回までの活動を示す。また、その活動の内容を表5に、支援活動参加者数を表6に示す。

表5 集団支援活動の内容

回	活 動 日	活 動 内 容
59	2010年 1月13日	・凧、凧、あがれ～！！
60	2010年 1月27日	・段ボール空気砲をデザインして遊ぼう
61	2010年 2月10日	・タイムカプセルを作ろう
62	2010年 4月28日	・紙で遊ぼう！紙で作ろう！
63	2010年 5月12日	・紙で遊ぼう！紙で作ろう！パート2
64	2010年 5月26日	・みんなでいろいろゲーム大会（伝線ゲーム・伝言ゲーム・輪くぐり）
65	2010年 6月 9日	・みんなの街をつくろう♪
66	2010年 7月14日	・楽しい夏休みを作ろう
67	2010年 7月28日	・夏の夜のミニコンサート
68	2010年 9月 8日	・しゃぼんだまをつくってあそぼう★
69	2010年10月27日	・グループ分けゲーム ・ボールでドーン!!かぼちゃおぼけをやっつけろ
70	2010年11月10日	・スライムづくり～みてさわって楽しもう～
71	2010年11月24日	・モビール作りもうすぐクリスマス（美術教室企画）
72	2010年12月 8日	・紅白スポーツフェスティバル2010
73	2010年12月22日	・すてきなクリスマスカードを作ろう☆

表6 支援活動参加者数

参加者数 活動日	子ども	親	学部学生・特別専攻科	他学部学生	院生	特別支援教育支援員	近接領域他大学学生	現職教員	近接領域の専門家	センタースタッフ	その他	合計
第59回 1月13日	5	4	14	4	4	0	2	5	0	2	0	40
第60回 1月27日	7	6	14	4	4	0	2	3	0	2	0	42
第61回 2月10日	7	6	13	3	4	0	2	4	1	2	0	42
第62回 4月28日	6	6	10	3	0	0	0	5	0	2	2	34
第63回 5月12日	5	4	9	3	1	3	0	6	0	2	2	35
第64回 5月26日	6	5	12	3	0	2	0	5	1	2	2	38
第65回 6月9日	5	5	9	2	0	1	0	5	0	2	3	32
第66回 7月14日	5	5	9	2	0	2	0	1	1	2	2	29
第67回 7月28日	4	4	4	2	0	1	0	4	0	2	2	23
第68回 9月8日	5	5	0	2	1	1	0	5	1	2	2	24
第69回 10月27日	7	6	8	4	2	6	0	5	0	2	0	40
第70回 11月10日	5	5	8	4	2	9	0	3	0	2	1	39
第71回 11月24日	5	5	9	4	2	4	0	2	0	2	2	35
第72回 12月8日	8	7	8	4	2	5	0	2	0	2	1	39
第73回 12月22日	5	5	8	4	2	5	0	2	0	2	0	33

(2) 公開セミナーと実践トータル支援プログラムの研究成果報告

地域社会への貢献を目的にする公開セミナーおよびセンター活動の実践研究成果の報告が『支援の必要な子どもたちの発達援助と教育実践』というテーマのもと、会場琉球大学法文学部新棟215教室において、1月22日（土）に開催された。滝川一廣（学習院大学教授）氏、浜田寿美男（奈良女子大学名誉教授）氏をお招きすることができた。基調講演および研究成果の報告に対するコメントを滝川一廣氏、浜田寿美男氏から頂き、教員、保育士、学生、発達支援に携わる専門家、支援員、保護者にとって実りのあるセミナーとなった。特別支援の実践研究報告は集団支援を中心として、題材「みんなのまちを作って遊ぼう」について報告し、さらに学校において

行った交流学习についての教育実践も重ねて報告を行った。さらに4年間、トータル支援に通った男児についての成果報告を行った。学校および教育関係機関を含めた各領域の専門機関からの参加者に実践から学ぶ教育の機会を提供することができた。本センターにおいてもアンケートによる地域のニーズの収集や活動への関心の度合いを確認することができた。特に今回は教員、保育士、保護者のみならず、県総合教育センター、県発達障害者支援センター、市町村教育委員会、県市町村福祉部局等の参加があり教育、福祉、医療領域から多くの発達支援、特別支援教育に熱心な関係者の参加を得ることができ、センターの取り組みへの関心の高さを感じた。また、教育の領域を超えて医療や発達障害者支援センター等の福祉の多くの専門家の参加が見られたことは今

後のセンターを拠点としたネットワーク作りの発展の可能性を感じさせるセミナーとなった。この公開セミナーは新聞報道（琉球新報に2011年1月27日、沖縄タイムス社2011年2月3日に掲載）にも取り上げられ、多くの反響を得た。

#### 公開特別支援セミナー

『支援の必要な子どもたちの発達援助と教育実践』

日時：1月22日（2011）土曜日

12時30分～18時00分

会場：琉球大学法文学部新棟215教室

参加者：約160人

・実践トータル支援活動の研究報告

司会：浦崎武：発達支援教育実践センター専任

コメント：滝川一廣（学習院大学教授）、浜田寿美男（奈良女子大学名誉教授）

1部：トータル支援教室実践研究報告：

支援を必要とする子どもたちの社会性を育てる  
集団支援と教育実践

集団支援：『トータル支援教室—集団支援「みんなのまちを作ろう」の成果—』

（崎濱朋子：センター特別研究員 沖縄市立中の町小学校教諭）

出前支援：『出前八重山支援—「みんなのまちを作って遊ぼう」—』

（大城麻紀子：センター特別研究員 那覇市立石嶺小学校教諭）

（宮脇絵理子：センター支援員 那覇市立松島小学校教諭）

連携支援：『トータル支援教室から教育実践への展開：「みんなのまちを作って遊ぼう」の授業実践—子どもの生活経験を広げるコミュニケーション指導の工夫—』

（瀬底正栄：センター特別研究員 東村立東小学校教諭）

個別支援：『トータル支援教室へ通った小学生男児の4年間のそだち』

（武田喜乃恵：センター特別研究員）

実践報告に対するコメント（滝川一廣・浜田寿美男）

2部：基調講演：

「発達障害」と呼ばれる子どもたちの育ちと学びの体験と生きるかたちを考える

『子どもたちの育ちと体験を考える』（滝川一廣）

『子どもたちの学びと生活を考える』（浜田寿美男）

質疑応答・対談 『子どもたちの育ちと学びの体験と生きるかたちを考える』（滝川一廣・浜田寿美男）

#### （3）離島・へき地支援活動

地元の新聞報道（八重山毎日新聞2008年1月19日に掲載）において、発達支援教育実践センターの八重山の周辺離島への継続的な支援の必要性が取り上げられたこともあり、相談支援、学校訪問に加え、大学において定例で行っている事例研究会を出張して行う新たな取り組みを昨年度に続き行った。一昨年の第1回は外部相談員として山上雅子氏（元京都女子大学、心理相談室ハタオリドリ）の協力を得て、専任教員浦崎武、事例提供者として大学院生の武田喜乃恵の3人で参加した。そして第2回は2009年3月5日、6日にセンター長奥田実、専任浦崎武、特別研究員の瀬底正栄、崎濱朋子、武田喜乃恵および現職教員の金城明美、6人で教育学部共同研究経費によりスタッフの人数を増やして出前トータル支援教室を開催した。第4回八重山出前支援は学部プロジェクトとして21世紀おきなわ子ども教育フォーラムに参画し実施した。第1回、東村出前支援に関しては財団法人宇流麻財団の助成を得て行った。第5回、第6回八重山出前支援は第4回同様、学部プロジェクトとして21世紀おきなわ子ども教育フォーラムに参画し実施した。第5回の記事は2010年3月8日八重山毎日新聞に、同年3月18日に琉球新報に、第6回の記事は2010年9月4日、5日に地元紙八重山毎日新聞、同年9月12日に琉球新報に掲載された。第2回東村教育委員会の連携により東村立東小学校で出前支援を10月に行う予定であったが台風の影響を受けて中止となった。

離島・へき地における八重山出前支援における臨床活動のセッション数を表7に、診断別内訳を表8に、地域別内訳を表9に示す。

1）第5回 平成22年3月（八重山教育事務所との連携）：支援プログラム

参加者総数75人

①発達支援教育相談1

平成22年3月5日（金）10：00～16：00

担当：浦崎 武（琉球大学教育学部 准教授）

・一組の相談時間は50分、計5組（5人）の相談を行った。

②実践事例検討会

平成22年3月5日（金）17：30～19：30

報告者：八重山特別支援学校教諭



参加者 21人

- ・具体的に困っている事例を、みんなで考え話し合った。
- ・発達支援教育に関心のある教員、専門家が参加して行った。

③トータル支援教室（集団適応支援教室）

平成22年3月6日（土）13：30～15：30

参加者 34人：子ども9人、支援スタッフ9人（学生3人含）、現職教員8人、親8人、

- ・事前の説明会30分、集団適応支援教室60分、反省会60分で行った。
- ・教員や保育士と対象児各一名が組になって 組の参加で行った。

④意見交換会「八重山の発達支援教育に必要なこと」

平成22年3月6日（土）16：00～18：00

参加者 13人

- ・発達支援教育に関心のある教員、保育士、関連領域の専門家が15名参加され、情報交換を行った。

⑤発達支援教育相談2

平成22年3月7日（日）10：00～12：00

担当：浦崎 武（琉球大学教育学部附属発達支援教育実践センター 准教授）

- ・一組の相談時間は50分、計2組（2人）の相談を行った。

2）21世紀おきなわ子ども教育フォーラムにおいて大浜中学校支援事業において協力

平成22年7月29日（木）10：00～12：00

担当：浦崎 武（琉球大学教育学部附属発達支援教育実践センター 准教授）

3）第6回八重山出前支援 平成22年9月（八重山教育事務所との連携）：支援プログラム 参加者総数79人

①発達支援教育相談

平成22年9月3日（金）10：00～17：00

担当：浦崎 武（琉球大学教育学部附属発達支援教育実践センター 准教授）

相談者：6組（7人）

- ・一組の相談時間は50分の相談を行った。

②トータル支援教室（集団適応支援教室）

平成22年9月4日（土）9：30～12：00

指導：琉球大学教育学部附属発達支援教育実践センター特別研究員、学生

参加者 43人：子ども15（兄弟含）、支援スタッフ8人（センター専任1人、特別研究員・現職教員5人、学生2人）、現地教員参加者8人、親12人

- ・事前の説明会30分、集団適応支援教室60分、反省会60分で行った。
- ・教員や保育士と対象児各一名が組になって12組の参加で行った。

③実践事例検討会

平成22年9月4日（土）15：00～16：30

報告者：大浜中学校教諭

参加者 15人：センター専任1人、特別研究員・現職教員5人、学生2人、現地参加者7人

- ・具体的に困っている事例を、みんなで考え話し合った。
- ・発達支援教育に関心のある教員、専門家が参加して行った。

④情報交換会

平成22年9月4日（土）16：30～17：30

参加者 15人：センター専任1人、特別研究員・現職教員5人、学生2人、現地参加者7人

- ・八重山の発達支援教育に関する現状について情報交換を行った。
- ・教育関係者の他、福祉関係者等発達障害者の支援に携わっている専門家も交えて情報交換ができた。

(4) 学校、保育園訪問支援活動

本年は那覇市、宜野湾市を中心に学校、保育園の

表7 八重山臨床活動 セッション数

相談の形態	3月 (2010)	7月 A中学 支援	9月	合計
保護者相談会（カウンセリング含む）、 面接セッション数	4	0	4	8
教員相談会（スーパー ヴィジョン含む）、 面接セッション数	3	1	3	7
トータル支援教室（集 団適応支援）セッシ ョン数	1	0	1	2
実践事例研究会（グ ループスーパーヴ ィジョン）セッシ ョン数	1	0	1	2
セッション総数	9	1	9	19

表8 八重山臨床活動 診断別内訳

診断名	3月 (2010)	7月 A中学 支援	9月	合計
アスペルガー障害（高機能自閉症）	7	1	6	14
注意欠陥多動性障害（ADHD）	2	0	2	4
精神遅滞（知的障害）	2	0	1	3
広汎性発達障害（自閉症）	1	0	1	2
学習障害（LD）	1	0	1	2
情緒障害（虐待、緘黙、不登校含む）	0	0	0	0
聴覚障害	0	0	0	0
言語障害	0	0	0	0
ダウン症候群	0	0	0	0
境界知能	0	0	0	0
身体障害	0	0	0	0
その他	0	0	0	0
計	13	1	11	25

表9 相談ケースの地域別事例内訳

相談ケースの地域別内訳	3月 (2010)	7月 A中学 支援	9月	合計
石垣市	12	1	11	24
竹富町（西表島）	1	0	0	1
総計	13	1	11	25

訪問支援を行った。保育園を含め10学校・園に訪問し相談を受けた。そのうち4園は月1回定期巡回の訪問支援となった。

#### （5）他機関および付属小・中学校との連携支援

- ①島嶼地域出張教育相談支援 八重山教育事務所との連携支援  
教育相談会、実践事例研究会、トータル支援教室の出勤
- ②特別支援教育支援員養成支援 読谷村教育委員会との連携支援  
トータル支援教室における特別支援教育支援員の実践力養成支援

#### ③特別支援教育支援員養成支援 那覇市教育委員会との連携支援

トータル支援教室における特別支援教育支援員の実践力養成支援

#### ④連携支援 附属小学校との連携支援 校内委員会の実施、子どもの適応支援

- ・発達に気になる子どもの適応支援、トータル支援教室への参加

### 3. 学生、院生、特別研究員への教育活動

#### （1）実践トータル支援活動

発達障害のある子どもたちや気がかりな子どもたちとの活動を通して子どもたちとの関わり方や支援のあり方を学び、将来、発達支援教育、特別支援教育に貢献できる学生や院生を育成すること、子どもたちの支援教育に携わる研究員の実践力を高めることを目的として教育活動を行っている。実践トータル支援活動のなかで「発達支援教育実践A」、「発達支援教育実践B」、「軽度発達障害児の臨床心理」を受講している学生は集団支援に参加し、グループで集団支援活動を企画し、集団支援の実践および集団のなかで個と関わる能力を養う。院生においては「軽度発達障害者支援特論」を受講すると担当する子どもの個別支援の実践力を養うことができ、さらに「特別支援教育特論B」を受講する院生は個別支援における関わりを整理し分析する能力を養う。当センターは子どもたちへの支援活動を通して実践力を備えて教育現場で活躍できる人材を育てる教育を行っている。

#### （2）実践事例研究会

実践事例研究会において、院生、特別研究員が実践事例の報告を行い、特別支援学校教員、小学校教員、中学校教員、保育士、臨床心理士、医師、言語聴覚士、大学教員、院生、特別支援教育支援員などの参加によりコメントをもらった。

#### 1) 実践事例検討会による院生への実践教育および特別研究員のリカレント教育

第37回、第39回、第42回、第46回、第47回は特別研究員、第44回、第45回は院生が実践事例を報告し、第43回、第48回は発達支援教育実践センターの専任教員が実践事例を報告した。参加者と事例について議論を行い、多面的な意見をもらった。

#### ・第37回 実践事例研究会

発表者：那覇市立石嶺小学校 教員

タイトル：『聴覚障害への理解をすすめるための実践～聴覚に障害をもつ児童と協

- 力学級の児童との関わりを通して～』  
 日 時：1月20日 18時30分  
 参 加 者：13名
- ・第39回 実践事例研究会  
 発 表 者：名護市立久辺小学校 教員  
 タイトル：『沖縄における広汎性発達障害の低学年児童とのかかわり—言葉に遅れのある2事例から—』  
 日 時：4月21日 18時30分  
 参 加 者：17名
  - ・第42回 実践事例研究会  
 発 表 者：琉球大学教育学部発達支援教育実践センター 特別研究員  
 タイトル：『3歳男児C君とのプレイルームでの関わり～ちょっと気になる子への支援～』  
 日 時：7月21日 18時30分  
 参 加 者：18名
  - ・第43回 実践事例研究会  
 発 表 者：琉球大学教育学部 教員  
 タイトル：『発達障害児への支援に及ぼす母親の心情や学校、地域支援体制の影響』  
 日 時：9月17日 18時30分  
 参 加 者：8名
  - ・第44回 実践事例研究会  
 発 表 者：NPOさぼーとせんたーi 作業療法士（琉球大学大学院 院生）  
 タイトル：『視知覚が気になる子どもへの支援—感覚統合訓練にて書字が上手になった事例—』  
 日 時：10月20日 18時30分  
 参 加 者：16名
  - ・第45回 実践事例研究会  
 発 表 者：美咲特別支援学校 教員（琉球大学大学院 院生）  
 タイトル：『障害のある幼児児童の就学支援体制づくり』  
 日 時：11月17日 18時30分  
 参 加 者：13名
  - ・第46回 実践事例研究会  
 発 表 者：東村立東小学校 教員  
 タイトル：『子どもの生活経験を広げるコミュニケーション指導の工夫』  
 日 時：12月15日 18時30分  
 参 加 者：14名
  - ・第47回 実践事例研究会（第8回特例会）
- 発 表 者：琉球大学教育学部発達支援教育実践センター 特別研究員  
 タイトル：『トータル支援教室へ参加する小学6年生男児の4年間の育ち』  
 コメント：滝川一廣（学習院大学）  
 日 時：1月21日（2011年）18時30分  
 参 加 者：18名
- ・第48回 実践事例研究会（第9回特例会）  
 発 表 者：琉球大学教育学部 教員  
 タイトル：『アスペルガー障害と診断された中学生男児との10年間の歩み—自己意識の揺らぎのなかで保育園、学校、家庭のあり方』  
 コメント：滝川一廣（学習院大学教授）・浜田寿美男（奈良女子大学名誉教授）  
 日 時：1月23日（2011年）10時  
 参 加 者：14名
- 2) 公開特別支援セミナー
- ・実践トータル支援活動の研究報告  
 司 会：浦崎武：発達支援教育実践センター専任  
 コメント：滝川一廣（学習院大学教授）、浜田寿美男（奈良女子大学名誉教授）
- 1 部：トータル支援教室実践研究報告：支援を必要とする子どもたちの社会性を育てる集団支援と教育実践  
 集団支援：『トータル支援教室—集団支援「みんなのまちを作ろう」の成果—』（崎濱朋子：センター特別研究員 沖縄市立中の町小学校教諭）  
 出前支援：『出前八重山支援—「みんなのまちを作って遊ぼう」—』（大城麻紀子：センター特別研究員 那覇市立石嶺小学校教諭）  
 （宮脇絵理子：センター支援員 那覇市立松島小学校教諭）  
 連携支援：『トータル支援教室から教育実践への展開：「みんなのまちを作って遊ぼう」の授業実践—子どもの生活経験を広げるコミュニケーション指導の工夫』（瀬底正栄：センター特別研究員 東村立東小学校教諭）  
 個別支援：『トータル支援教室へ通った小学生男児の4年間のそだち』（武田喜乃恵：センター特別研究員）

実践報告に対するコメント（滝川一廣：学習院大学教授・浜田寿美男：奈良女子大学名誉教授）

## 2部：基調講演：

「発達障害」と呼ばれる子どもたちの育ちと学びの体験と生きるかたちを考える

『子どもたちの育ちと体験を考える』

（滝川一廣：学習院大学教授）

『子どもたちの学びと生活を考える』

（浜田寿美男：奈良女子大学名誉教授）

質疑応答・対談 『子どもたちの育ちと学びの体験と生きるかたちを考える』

（滝川一廣・浜田寿美男）

## （3）センター専任教員の授業担当

センター専任教員は、当センターでの取り組みに参加し実践を学ぶことをねらいとして、昨年度から学部への提供授業『発達支援教育実践A』、『発達支援教育実践B』を開設している。また、特別支援教育専攻の選択必修授業を担当している。平成22年度は以下の授業を担当した。

学部1年～4年「発達支援教育実践A」、「発達支援教育実践B」

学部3年、特別専攻科「軽度発達障害児の臨床心理」

大学院 「特別支援教育特論B」

大学院 「障害児臨床心理学特論」

大学院 「軽度発達障害者支援特論」

大学院 「障害児教育の実践研究・」

## （4）センター特別研究員およびセンター事業による研究論文

・2011年3月（浦崎武 武田喜乃恵 崎濱朋子 瀬底正栄 大城麻紀子 宮脇絵里子）「トータル支援教室」関連紀要 遊びを媒介とした他者との関係性と共有に基づく集団支援 — 支援企画 ‘みんなのまちをつくって遊ぼう’ — 琉球大学教育学部発達支援教育実践センター紀要 第2号

・2010年7月（瀬底正栄 浦崎武）人との関係性をもつ子どもたち〈発達臨床〉研究会：学童期の多動傾向にある子どもとの関係性の形成と生活世界の拡がり 発達, 123

・2011年3月（瀬底正栄 浦崎武）遠隔地間の特別支援学級における交流学习の取り組み— 遊びを通したコミュニケーション意欲の向上をはかる指導の工夫 — 琉球大学教育学部発達支援教育実践センター紀要 第2号

・2011年3月（金城明美 浦崎武）知的に遅れない広汎性発達障害児童のトータル支援— 指示に反応し怒りを表出する小3男児とのかかわり — 琉球大学教育学部発達支援教育実践センター紀要 第2号

## （5）大学院生の修士指導論文および修了後による公表論文

・2011年1月（新垣香代子）人との関係に問題をもつ子どもたち〈発達臨床〉研究会：時計に興味があるAさんと他者とのかかわり 発達, 125

## 4. 研究教育活動

### （1）実践事例研究会

2006年10月から月1回定期、水曜日に院生、現職教員、コーディネーター、特別支援教育関係者、その他の近接領域の関係者が参加して実践研究を行ってきた。本年度は当発達支援教育実践センターの活動施設が完成したことにより、新設されたセンターにおいて支援活動を行った。この実践事例研究会は対外的には沖縄発達研究会と呼び、長年の子どもの発達研究の成果が蓄積された京都発達研究会のスーパーヴァイズ等の協力を得ている。

第4回は特例会として麻生武（奈良女子大学）氏、山上雅子（元京都女子大学、心理相談室ハタオリドリ）氏がコメンターとして参加された。また、第11回には浜田寿美男（奈良女子大学）氏、麻生武氏、山上雅子氏の他、京都の発達研究会との共同研究会が開かれた。第22回は京都発達研究会から山上雅子氏をお招きして開催された。また、第24回の特例事例研究会では発達支援教育実践センターの研究会メンバーが奈良女子大学に出向き、第2回沖縄・京都発達研究会合同研究会が開かれた。関西地区以外にも東北地区、関東地区、中部地区からも参加者が来られた。

本年度は第47回（第8回特例会）事例研究会では滝川一廣氏（学習院大学）が、第48回（第9回特例会）事例研究会では滝川一廣氏と浜田寿美男（奈良女子大学名誉教授）氏をお招きして開催した。

### ・第37回 実践事例研究会

発表者：那覇市立石嶺小学校 教員

タイトル：『聴覚障害への理解をすすめるための実践～聴覚に障害をもつ児童と協力学級の児童との関わりを通して～』

- 日 時：1月20日 18時30分  
 参加者：13名
- ・第38回 実践事例研究会  
 発表者：ゆうわ保育園 保育士  
 タイトル：『子どものあそび』  
 日 時：2月17日 18時30分  
 参加者：20名
  - ・第39回 実践事例研究会  
 発表者：名護市立久辺小学校 教員  
 タイトル：『沖縄における広汎性発達障害の低学年児童とのかかわり—言葉に遅れのある2事例から—』  
 日 時：4月21日 18時30分  
 参加者：17名
  - ・第40回 実践事例研究会  
 発表者：那覇市立松島中学校 教員  
 タイトル：『特別支援学級に在籍するトゥレット症候群の中学生男子の事例』  
 日 時：5月19日 18時30分  
 参加者：17名
  - ・第41回 実践事例研究会  
 発表者：琉球大学教育学部 教員  
 タイトル：『自傷行為の激しい全盲の子どもの自己実現を目指して』  
 日 時：6月16日 18時30分  
 参加者：30名
  - ・第42回 実践事例研究会  
 発表者：琉球大学教育学部発達支援教育実践センター 特別研究員  
 タイトル：『3歳男児C君とのプレイルームでの関わり～ちょっと気になる子への支援～』  
 日 時：7月21日 18時30分  
 参加者：18名
  - ・第43回 実践事例研究会  
 発表者：琉球大学教育学部 教員  
 タイトル：『発達障害児への支援に及ぼす母親の心情や学校、地域支援体制の影響』  
 日 時：9月17日 18時30分  
 参加者：8名
  - ・第44回 実践事例研究会  
 発表者：NPOさぼーとせんたー i 作業療法士（琉球大学大学院 院生）  
 タイトル：『視知覚が気になる子どもへの支援—感覚統合訓練にて書字が上手になった事例—』

- 日 時：10月20日 18時30分  
 参加者：16名
- ・第45回 実践事例研究会  
 発表者：美咲特別支援学校 教員（琉球大学大学院 院生）  
 タイトル：『障害のある幼児児童の就学支援体制づくり』  
 日 時：11月17日 18時30分  
 参加者：13名
  - ・第46回 実践事例研究会  
 発表者：東村立東小学校 教員  
 タイトル：『子どもの生活経験を広げるコミュニケーション指導の工夫』  
 日 時：12月15日 18時30分  
 参加者：14名
  - ・第47回 実践事例研究会（第8回特例会）  
 発表者：琉球大学教育学部発達支援教育実践センター 特別研究員  
 タイトル：『トータル支援教室へ参加する小学6年生男児の4年間の育ち』  
 コメント：滝川一廣（学習院大学）  
 日 時：1月21日（2011年）18時30分  
 参加者：18名
  - ・第48回 実践事例研究会（第9回特例会）  
 発表者：琉球大学教育学部 教員  
 タイトル：『アスペルガー障害と診断された中学生男児との10年間の歩み—自己意識の揺らぎのなかで保育園、学校、家庭のあり方』  
 コメント：滝川一廣（学習院大学教授）・浜田寿美男（奈良女子大学名誉教授）  
 日 時：1月23日（2011年）10時  
 参加者：14名

## （2）実践研究公開報告

1月22日（2011）のセミナーにおいて実践トータル支援活動の成果およびその取り組みの成果を学校に還元し、行った授業における実践研究の報告を行い、滝川一廣（学習院大学教授）氏、浜田寿美男（奈良女子大学名誉教授）氏から貴重なコメントを頂いた。

## （3）国立大学障害児教育関連施設・センター共同研究

国立大学障害児教育関連施設・センター連絡協議会の会員が連携研究者となって共同研究を行った。3月で終了した。平成20～21年度科学研究費補助金（基盤研究B、課題番号 20330194）、

研究課題は『小学校教員養成プログラムにおける特別支援教育スタンダードの開発』である。

#### （4）実践研究論文の作成

1月22日に実践研究の公开发表を行った事例を中心に実践トータル支援活動の実践の成果、実践事例研究会の検討事例に関する実践研究の成果を以下の論文にまとめた。

##### 1) トータル支援教室報告：研究論文

- ・2010年4月（浦崎武）沖縄の歴史的文化的土壌と人と人が繋がる地域の力による発達支援－大学の発達支援教育実践センターによるトータル支援活動の展開 発達, 124
- ・2011年3月（金城明美 浦崎武）知的に遅れない広汎性発達障害児童のトータル支援－指示に反応し怒りを表出する小3男児とのかかわり－ 琉球大学教育学部発達支援教育実践センター紀要 第2号

##### 2) 事例研究会：研究論文

- ・2010年6月（ゆうわ保育園 浦崎武）沖縄の保育園での遊びの実践から見えるもの 発達, 122
- ・2010年7月（瀬底正栄 浦崎武）人との関係に問題をもつ子どもたち＜発達臨床＞研究会：学童期の多動傾向にある子どもとの関係性の形成と生活世界の拡がり 発達, 123
- ・2011年1月（新垣香代子）人との関係に問題をもつ子どもたち＜発達臨床＞研究会：時計に興味があるAさんと他者とのかかわり 発達, 125

##### 3) 公開セミナー報告：研究論文

- ・2011年3月（浦崎武 武田喜乃恵 崎濱朋子 瀬底正栄 大城麻紀子 宮脇絵里子）「トータル支援教室」関連紀要 遊びを媒介とした他者との関係性と共有に基づく集団支援－支援企画‘みんなのまちをつくって遊ぼう’－ 琉球大学教育学部発達支援教育実践センター紀要 第2号
- ・2011年3月（瀬底正栄 浦崎武）遠隔地間の特別支援学級における交流学习の取り組み－遊びを通したコミュニケーション意欲の向上をはかる指導の工夫－ 琉球大学教育学部発達支援教育実践センター紀要 第2号

##### 4) 紀要：発達支援教育実践センタースタッフ研究論文

- ・2011年3月（浦崎武）アスペルガー障害における聴覚過敏性へ重要な他者との関係性が与える影響－事例による行動の変容を通して－ 琉球大学教育学部発達支援教育実践センター紀

##### 要 第2号

- ・2011年3月（浦崎武 武田喜乃志）学童期を中心とした社会性のサポートの必要な子どもたちへのグループ支援－トータル支援教室の支援企画‘ツユコレ’の成果から－ アスペハート27号

##### （5）発達研究会

毎月1回、大学院生、現職教員、発達支援に携わる専門家を対象に発達研究会を開いている。実践教育を行う上で基礎となる発達理論を学ぶ会を開いている。

##### （6）定期刊行物の発行

定期刊行物として「発達支援教育実践センター紀要」を発行している。2011年3月には第2号を発行した。

##### （7）研究資料の提供

- ・トータル支援教室の活動に関することや支援を受けている子どもたちとの関わりについて報告し、実践支援セミナーにおいて資料として配布した。
- ・実践支援セミナーにおいてトータル支援教室で行っている企画を学校で活用できるように指導案にして配布した。

##### （8）助成金における研究

###### 1) 財団法人琉球大学後援財団

- ・外部講師を招聘し、実践事例研究会、基調講演、実践研究報告会、フォーラムを開催した。  
事業名：離島・へき地への発達支援と支援セミナー：子どもたちへの出前トータル支援  
事業名：離島・へき地へ  
実施期間：1月21日～22日（2011）

###### 2) 沖縄子どもフォーラム

- ・八重山主張支援を『21世紀おきなわ子ども教育フォーラム』への参画により行った。  
事業名：八重山教育事務所との連携による特別支援教育支援員の実践養成講座の構築  
実施期間：第2回3月5日～6日、第3回9月3日～4日、第4回3月4日～6日（2011）

##### 5. その他の活動

###### （1）国立大学障害児教育関連施設・センター連絡協議会について

毎年度、9月に1度、日本特殊教育学会の開会中に開催される障害児教育関連施設センター連絡協議会が開かれ、各センターの現状報告を行った。

日 時：9月19日（日）11時00分～11時50分  
会 場：長崎大学・教育学部棟・3階31番講

義室

(2) その他の社会的活動

センター専任 浦崎武

- ・宜野湾市障害児等審査委員会委員  
開催日 1月13日(2011)
- ・宜野湾市障がい児保育実践報告会  
開催日 2月16日(2011)
- ・島尻地区特別支援専門家チーム委員会  
開催日 6月29日
- ・特別支援教育総合推進事業：島尻地区特別支援連携協議会委員  
開催日 2月22日(2011)
- ・宜野湾市保育園巡回相談員  
依頼期間 4月1日～3月31日(2011)
- ・那覇市教育委員会学習障害児等専門家チーム巡回支援員  
真地小学校(2月18日)、小祿南小学校(2月22日)、  
松川小学校(4月22日)、真和志中学校(6月21日)、  
古蔵中学校(9月15日)、金城中学校(9月16日)、  
神原中学校(12月14日)、城岳小学校(12月16日)  
依頼時期 5月16日～3月31日(2011)
- ・那覇市立石嶺小学校校内研修会  
日 時：6月17日  
会 場：石嶺小学校
- ・県教育委員会 カウンセリング実践講座(特別支援教育論)講師  
開催日 7月9日、23日、30日、8月23日
- ・鏡が丘養護学校評議員  
開催日 7月14日、11月29日
- ・県教育委員会 免許認定講習 講師  
開催日 7月26日、27日
- ・特別支援教育10年研修会(教育相談)講師  
開催日 8月10日  
会 場：沖縄県立総合教育センター
- ・那覇市教育委員会就学指導委員会委員  
開催日 9月29日～3月31日(2010)
- ・県立浦添工業高校校内研修会  
日 時：10月26日  
会 場：浦添工業高校
- ・沖縄特別支援教育研究会自閉症部門 コメント  
日 時：12月8日  
会 場：大平特別支援学校